

子どもを守る仏

おじぞうさんを祭る地藏盆

8月23日・24日、あるいはそれに近い土・日曜日には、「おじぞうさん（地藏菩薩）」を祭る地藏盆が市内各地で開催されます。民衆を広く救済する慈悲深さをもった地藏菩薩への信仰（地藏信仰）は平安時代中頃より広がり、人々に大いに受け入れられました。やがて地藏菩薩は辻や境の神々と習合し、さらに子どもを守る仏として発展しました。これに伴い、地藏の縁日である8月24日と前日の23日に、子どもが中心になる地藏盆が行われるようになりました。

（もしくはそれに近い土日）や、③8月15日頃に行われるところもありです。もともと地藏盆は旧暦の7月24日に行われていたが、明治5（1872）年の太陽暦導入に伴い、①旧来のまま8月に行ったところ（前述①）、新暦に合わせたところ（同②）、旧暦の7月24日にあたる8月15日前後に開催するところ（同③）と分かれたようです。旧八幡町内の東側は②、西側は③の日程で行われるところが多く、安土学区の一部でも地藏盆に関する行事を③で行うところが見られます。

している場合が数多いのですが、当番宿の自宅にお地藏さんを迎えて祭るところ、個人宅にあるお地藏さんを各家で祭るところもあります。沖島町は、各家にあるお地藏さんを丁寧に洗い座敷に飾ります。お地藏さんの回りには「地藏大菩薩」や子どもの名前を書いた五色の幟が飾られ、子どもたちの健康を祈ります。岡山学区も、各家で祭る場合が多く、普段は庭にあるお地藏さんを洗って縁側におげ、きれいに祭ります。子どもたちは、飾られたお地藏さんをお参りに各家を回ります。なかでも田中江町は町内全体で行われ、子どもたちが大きな紙袋を持ってお供えのお下がりをもろう様子は、さながら残暑のハロウィンです。



沖島の家庭の地藏飾り

また、地藏盆で行われる行事に、百万遍の数珠繰りがあります。大きな数珠を「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えながら、たくさんの人の手で回し、親玉が来たとき頭の上に捧げ、健康や幸せを祈るものです。またこの数珠を体に当てると、邪気を払い除け、身を清めてくれるとも言われています。

コロナ禍の影響により、多くの民俗行事・祭礼行事が中止を余儀なくされていますが、一方では適切な感染防止策を講じて、形を変えながら維持を模索している事例もあります。「地域行事等の開催に係るガイドライン」（市ホームページを参照ください）（<https://www.city.omihachiman.lg.jp/>）などを参考に、子どもたちを守りつつ地域の人々の交流機会でもある地藏盆を継承いただければと思います。

※写真はいずれも「近江八幡の歴史」第3巻（祈りと祭り）の編さんに際して平成17・18年に撮影されたものです。



百万遍の数珠繰り（馬淵町新在家）

！ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、催しが急に中止になることがあります。開催されるかどうかは事前に担当課または主催者へご確認ください。

最新情報は、市ホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和2年7月1日現在 ( )は前月比

総数	82,182人 (- 34)
男	40,398人 (- 33)
女	41,784人 (- 1)
世帯	34,285世帯 (+ 16)

※外国人住民(43カ国・地域/1,510人)を含みます。